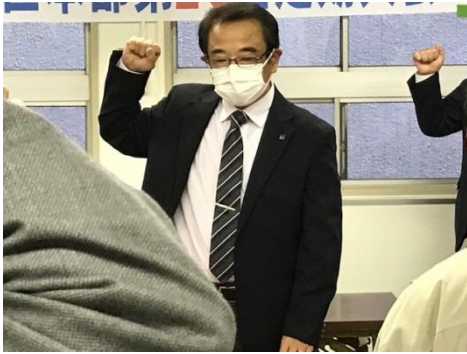


穴井委員長年頭あいさつ



新年あけましておめでとうございます。

昨年も組合員・ご家族の皆様より、国労博多地区本部へのご支援とご協力を頂き誠にありがとうございました。長きに渡る新型コロナウイルスの感染拡大と原油高騰による物価上昇で、私たちの生活、労働環境は大きく変わりました。感染拡大防止の為、社員間の飲み会や旅行は自粛を余儀なくされ、会社はコロナ感染拡大と自然災害による大幅減収を理由に、四期連続で一時金の大幅カットを行い、業務効率化による要員削減、減便、廃止で利用者にも更なる不便をかけ、安全性が脅かされようとしています。また会社の将来に不安を感じた多くの若い社員が職場をあとにしました。私たちはこのような弱い立場の社員や交通弱者が犠牲となる労働環と鉄道の安全、利便性を向上していく運動を展開していかなければなりません。今年も国労博多地区本部は、利用者の安全性と利便性軽視の業務効率化には反対し、現場で働く社員がモチベーションアップのできる一時金回復と大幅賃上げ、働きやすい労働環境の向上、社員とご家族の生活向上を目指す闘いを展開していきます。そしてコロナ感染が一日でも早く収束をし、コロナ前の明るい日常生活に戻る事を願い、新年のご挨拶と致します。共に頑張りましょう！

2023年元旦



青年のひとりごと

年が明けて、今年もまた1つ年齢が上がるわけですが、なぜか日本には、この「歳を重ねる」ことをネガティブに捉え、非活動的になる人が思いのほか多く、こちらまで萎えてしまいます。本来、人は何かを頑張っていれば、年齢が上がると共に成長していくもの。なのに、「もう歳だから」が口癖で、何かに挑戦することさえ放棄してしまうのは、人は年齢と共に「劣化」していくことが前提とされているわけで、おそらく、その根拠は「体力」にあるのでしょうか。確かに、年齢と共に体力が衰えていくというのは、科学的には正しいのかも知れませんが、しかし、人間の価値というのは「体力」だけなのでしょうか。人が生きて行くには「知性」が必要であり、これは人生経験がものを言うため、この場合、年齢とともに賢くなり新たな可能性が開けてくるのは自明です。私たちは「横並び」の教育を受けてきたためか、「みんな」と同じ事を続けていると、やはり「体力」の差というのは、世代間における「違い」として目立つのかも知れませんが、同時に、「自分はどう生きるか」というのも、全人類共通の課題であり、その思考の先は、学問や芸術等多岐にわたります。人間の価値を「体力」だけで計るなど視野偏狭としか言えない。「歳を重ねるだけで人は老いない。理想を失う時に初めて人は老いる」(サムエル・ウルマン「青春」より)。もっとも、「現在は過去の積み重ね」と言われているように、「もう歳だから」と言って「挑戦」をしない人というのは、「若い頃」も同じ生き方をしていた可能性が高く、ただ、年齢が上がったという事実を後ろ向きに捉え、それに甘えて怠けたいだけ。当然、彼らも「自尊心」を維持する必要があるため、何かに挑戦している人や何かに失敗した人を見るや否や、「君も、もう歳だからね」といった常套句で揚げ足を取ろうとします。これを一般的に「老害」といい、「退行欲求」がグロテスクな形で露呈したものと言えます。私はそういうふうにはなりたくない。今年何か一つでも新しいことを出来るようになりたいと切に思う今日この頃です。

○当面する行動

- 1月17日(火) 15:30~/佐賀分会定期大会 神野公民館
- 1月18日(水) 13:00~/地区本部業務部長会議 九州本部事務所
- 1月30日(金) 11:00~/組織・交通合同対策会議 博多地区本部事務所